

音 今 の 町 崎 黒

黒崎のスポーツ

大洋クラブの方々の手記から黒崎の野球の移り

変わりをたどってみる。

(+)

(先月号からの続き)

平成三年ころ、大洋クラブの
ルーツを訪ねて記念誌をつくら
うという声がおこり、浅妻康二
さんを中心に、その取材活動が
行われた。そして、多くの人々か
ら、戦前、戦中、戦後、平成にわ
たつて記念誌発行への思いをこめ
た手記が寄せられたが、残念な
が実現せず今日に至っている。

この度、町の野球部黒崎クラブ
の人達から、黒崎町の野球の始ま
りとされる「大洋クラブ」のルー
ツを訪ねて、まとめて欲しいと依
頼され、微力ながら取り組むこと
になった。

大正末期、大野の人達が初めて
野球大会をした話を新聞記事から
とり、なんとか稿を進めてきたが、
昭和二年に結成された大洋クラブ
の昭和初期の戦前から戦中の頃の
活動状況については記録が全くな
く困惑していたところ、黒崎クラ
ブの前監督笹川英雄さん(運方団
地)から、平成三年頃、大洋クラ
ブの記念誌発行の計画があったと
き、旧大洋クラブの先輩や、昭和
中期以降に入部し活躍してきた人

達からも、大洋クラブへのそれぞ
れの思いをこめた感想文が寄せら
れていることを聞かされた。早速
見せていただいたところ、六十数
年前の激動の昭和初期、まだ中学
生だったみなさんの悲喜こもごも
の思い出や、貴重な体験談がのっ
ていた。

これらの感想文を書かれた人の
何人かはすでに故人となられ、そ
の思いを伝えたいと願って書かれ
た文章の多くは絶筆となつてい
る。これを年代順に記して大洋ク
ラブから、昭和六十年三月、黒崎
クラブへの移り変わりをたどつて
みる。

感想文(1) 思い出

高橋正平

(明治四十一年四月七日生)

なつかしい大洋クラブで記念誌
発行とのこと、一筆、思い出のま
ま申述べさせていただきます。

時は大正十五年春休みに入った
頃、東京で時計商の修行を終り帰
宅された、町内笠原万六さんから
野球をやらないかと勧誘を受け、
手製のグローブ(綿ネルの生地)に
綿をつめ込んで手縫いしたもの)

を作つて、場所は栄町裏の砂土の
川原でキャッチボールを始めたも
のでした。

主力メンバーは、新潟商業学校
の生徒を中心に、捕手に七区の笠
原万六さん、投手は私(新商四年
生)、新町より芝田義雄さん(新
商四年生)、諏訪町より宮野五郎
さん(新商四年生)、鷺ノ木より
佐藤成雄さん(新商四年生)、仲
町より細川平一郎さん(新大一年
生)、八区より渡辺権佐久さん
(新商四年生)、新町より白井富
七さん(新商四年生)、仲町より
松井信一さん(新商一年生)、以
上九名が主力メンバーで、その他
新町から中山さん、二ノ丁より浅
間さん等の仲間がありました。特
に松井信一さんは一塁手で左き
きで、投手も兼ねられ非常に大切

な有力メンバーでした。

その頃より沼垂方面から野球試
合の申し込みがあり、球場を中ノ
口川河口の中洲を活用移動して
行ったものです。兩岸をロープで
繋ぎ小舟に乗って対岸まで、雑木
を引き抜き倒し大変苦労して広い
球場を造つて試合を行ったもので
す。いまは前記のみなさん殆ど故
人となられ私一人当時をしのび後
進のみなさんへ御活躍を祈念しつ
つペンをおきます。

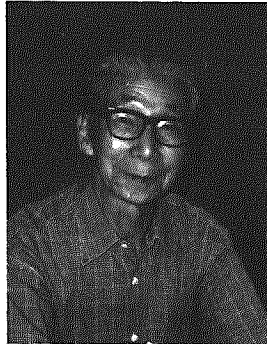
平成三年一月、記

高橋さんは今も健在です。

今から十数年前「黒崎町の今昔」
を出版する前だったと思うが、町
の昔のことを取材に何回も丸屋さ
んを訪れた。七十歳になられた
御主人正平さんは何時もお元気
で、店のすぐ奥に設けられ
た事務室で一人机に向かっ
て椅子にかけておられた。
その姿勢の良さに高橋さん
が、かつては新潟労働基準
監督署長を務められた経歴
の人ということが惚げれ
た。私の訪問を喜ばれ、私
の質問に対してにこやかに
説明される高橋さんの応待
ぶりのなかには、元、お偉
い官僚さんだったことな
ど、微塵も感じられぬ、た
だおだやかで優しいおじい
ちゃんという印象しかなか
った。



高橋正平さん



浅妻康二さん

感想文(2) 黒崎町の野球は
じめ

そんなことから野球が普及する
ようになり、はじめは学生が親し
んでいた。高橋さんの話ではグラ
ンドが思うようになかったので、
栄町の河原でやったり、試合をす
るときは、当時曾川の河の中洲を
整地してやったりしたそうである。
私が昭和七年で野球を始めたの
は、いまの大野小学校のグラウンド
である。このグラウンドはトラック
はあつたけれども、中のフィールド
は田んぼであった。(続)

私が高橋中学校(現新潟高校)
に入学したのは、昭和七年である。
当時新潟中学、新潟商業に入学す
ると大洋クラブという野球部に入
ることが伝統であった。
その大洋クラブこそが、黒崎町
の野球の始まりである。私も野球
にはずいぶん熱中した方であるが、
いまではその足跡を知る人も少な
くなった。いま大洋クラブ七十年
史をまとめるという仕事をしてい
るが、「黒崎町の今昔」の一頁に
もなればと話題を提供したい。
七十年史というので、確かなこ
とを調べてみると、始まりは、昭
和二年、当時、新潟商業四年生
だった高橋正平さんらによって行
われたというのが正確なところで
ある。だから正確に言うくと六十
四年ということになる。